

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和4年度 第2回佐渡市行政改革推進委員会
開催日時	令和4年8月31日(水) 13:30~15:20
場所	佐渡市役所 第1会議室
会議内容	1 開会 2 諮問書の手交 3 議事 1) 佐渡市の財政状況について(財政課) 2) 佐渡市事業レビューについて 3) その他(次回、委員会開催日について) 4 閉会
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	≪行政改革推進委員≫(6名) ・会長 今本 啓介 ・職務代理 池 倫子 ・委員 安土 祐子、西尾 真治、山口 博司、岡部 潤 ≪市役所≫(5名) ・佐渡市長 渡辺 竜五 ・企画財政部副部長兼財政課長 平山 栄祐 ・事務局 総務部長 中川 宏 総務課総務行革係調査員 若林 昭宏 総務課総務行革係主事 庭崎 友孝
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	1人
備考	
会議の概要(発言の要旨)	
発言者	議題・発言・結果等
渡辺市長	1 開会 2 諮問書の手交 (渡辺市長は公務により退席)

	<p>3 議事</p> <p>1) 佐渡市の財政状況について（財政課）</p> <p>【資料No.1 により説明】</p>
平山財政課長	
会長	・ただいまのご説明に対して質疑等があれば、ご発言をお願いします。
委員	・色々な市町村も税金が取れなくて困っている話を聞くが、自主財源の市税が減っていくのではないか。
平山財政課長	・固定資産税の徴収率は他の税と見比べると低い状況になっている。
会長	・ふるさと納税は、そこまで多いわけではない。まだまだ増やしていく余地がある印象があるがいかかがか。
平山財政課長	・よく色々なところで話がでていますが、金額的にはあと数億程度の上積みを目指している。
委員	・全体的に佐渡市が生んでいるお金以上に外からのお金に頼っている印象を感じた。他の自治体も同様なのか。新潟県だけでなく全国で見たときにどうなのか。佐渡市が自力で生むお金を増やす戦略は今のところあるのか。
平山財政課長	・市税が少なくて交付税が多い状況にある。ふるさと納税も含め、財源の確保策が一番の課題である。あとは企業版ふるさと納税の活用も検討している。
会長	・自主財源の比率は客観的に見ても少ないと思う。ただ、佐渡市の場合は離島ということもあり、地方交付税の割合がかなり大きくなっているかと思う。。
平山財政課長	・佐渡市は離島であり、日本の縮図といわれるとおりに、何でもあるので需要が大きい。
委員	・コロナ対策で歳出が増えているが、国からの補助金で賄われており、コロナの影響は財政的には大きく受けていないと理解してよいか。
平山財政課長	・総じてコロナ対策の経費は臨時交付金や国の補助事業等々で賄っている事情があり、一般財源を投入した部分は少ない。ただ、一部は、一般財源により対応した例もある。
委員	・非常に依存財源が高いという一方で、国からの補助等によってある程度財政状況が安定的に保たれているともいえる。それを是とするのか、今後自主財源比率を高め財政構造を変えていく必要があると考えていくべきか、方向性について伺

	う。
平山財政課長	・自主財源が増えていくのが理想だが、合併からこれまでの間、解決策を見出せていない。今後の計画を作成にあたっては、やはり歳出を抑制していくというのが計画していくというのが現状である。
会長	・地方交付税は総額が決まっており、不足分は、臨時財政特例債で賄われているので、あまり頼りすぎるのは危険であると考えるがいかがか。
平山財政課長	・今回示していないが、国も健全化法の関係で、財政的に危ないという比率の時は健全化計画作ってくださいとしている。佐渡市においては、こうした比率を十分に下回っており、残高減らすことと同時にこういった比率にも注視している。
委員	・基金残高で、県内 20 市との比較をされているか。人口 5 万人前後の他県の市との比較はされたことあるのか。
平山財政課長	・新潟県内では村上、十日町、南魚沼が、人口 5 ～10 万で産業構造が 2 次産業の割合が何割以上等といったパターンでグループ化をした中で比較するのはある。
会長	・佐渡市はまだ基金がある。29 年度で減ったのはどういう理由か。
平山課長	・当初予算で財源不足をまず計上して、普通は決算を迎えると余剰金も出るので調整が働く。例えば、当初 20 億繰入しようとしていたところ決算で精算したら 10 億位になったとかいろいろある。
会長	・ここで質疑を終了する。平山課長の出席はここまでとなる。 ・ここで喚起のため休憩をとる。
	(休憩)
会長	・再開する
	3 議事 2) 佐渡市事業レビューについて (【資料 No.2】「佐渡市事業レビュー 実施スケジュール」に沿って説明) (【資料 No.3】「令和 4 年度当初予算の概要」に沿って説明)
若林総務行革係調査員	
会長	・ただいま事務局より説明があったが、意見・質問等あるか。

会長	・事業レビューは何件くらい想定しているのか。
若林総務行革係調査員	・全体で5件程度と考えている。。
委員	・対象となるのは事業か。 ・評価の視点に全体の評価や、政策分野全体の視点と書いてあるが、今の話で個々の事業を見ていくと、政策全体としての評価が難しいと考えるが如何か。
若林総務行革係調査員	・政策にあたってのこういう事業を評価いただく形になると考えている。事務事業評価ということでお願いしたいと思う。
委員	・1つの施策目標に対して複数の事業が位置づけられ、それらの事業全体で1つの施策を達成していく構成になっていくものとする。それを施策全体ではなく、1つの事業だけで判断するより、関連する事業全体を見ないと評価はできないかと考えるが如何か。
会長	・政策の妥当性ということを一応見ないと、事業自体の評価が難しいと考える。
若林総務行革係調査員	・4ページの防災・減災で安心安全な島づくり事業の安全・安心まちづくり事業の1事業に含まれている。
若林総務行革係調査員	事業レビューの実施までに評価の視点を検討し直してお示しさせていただく。
委員	・今回、事業レビューしたい目的は何か。不要かと思われる事業をピックアップするのか、どういう目的なのか。それともそれぞれの事業を聞いてみたくて、担当者から説明いただくということなのか。
若林総務行革係調査員	・行政評価というと、予算的に切りたい事業の後押しになりがちだが、そうではなく、良い事業は良い事業として御評価いただきたい。事業が市民ニーズや社会とマッチしているかというところを見て頂きたいという思いがある。
委員	・それであれば、全体のバランスが必要になるのではないかと考える。
池委員	・目的に合わせてこの事業をやっていることはすごくいいですね、という評価をした方がいい気がする。
会長	・まだ目標には達していない、十分達しているとかそういうことを評価するのが評価だと思う。

若林総務行革係調査員	検討し直さないといけないところがある。事業レビュー自体の課題もある。
会長	私の方でも事務局と相談させていただきながら決めさせていただく。
	議事 3) その他「・次回、委員会開催日について」
	・ 10月12日(水) 10時～16時30分を開催日時とする。
	4 閉会